

令和5年度 第1回 三重県河川整備計画流域委員会 議事要旨

日時：令和6年1月31日（水）

13:30～16:30

会場：伊勢庁舎 4階 402会議室

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 議事

大堀川水系河川整備計画について、以下の通り議事を行った。

委員

- ・ 大堀川流域の流域界が海に面していない形状となっているが、海に面している箇所はすべて直接海に放流されるのか。大堀川に放流されるのであれば大堀川流域に含めるべきではないか。

事務局

- ・ 大堀川下流部の流域は主に水田として利用されている内水地域であり、ポンプにて大堀川に排水しています。今回は既往計画での流域界を示していますが、ポンプ流域の精査を行い、今後流域界の見直しを検討していきます。

委員

- ・ 大堀川最上流部のゴルフ場に降った雨はどこに排水されるのか。

事務局

- ・ 大堀川に排水されます。

委員

- ・ 今回策定する河川整備計画は、対象規模の降雨に対して、外水による被害を防ぐのみではなく、内水による被害を防ぐことも目標とするのか。

事務局

- ・ 河川整備計画は外水のみを対象とします。内水被害については、毎年開催している流域治水協議会において、流域治水プロジェクトの進捗と更新を行っていますので、関係市町と連携して被害軽減に努めます。

委員

- ・ 津波についての説明があったが、高潮対策についても検討を行うのか。

事務局

- ・ 洪水のほか津波や高潮対策について、検討する予定です。

委員

- ・ 大堀川下流部の防潮水門閉鎖時の洪水の排水はポンプを設置して行っているのか。

事務局

- ・ 高潮時の水門閉鎖による家屋浸水は確認されていないことから、ポンプの設置は想定していません。

委員

- ・ 環境に適した掘削断面の形状などを具体的に示すためにも、横断面図を積極的に用いてほしい。
- ・ 地域住民へのアンケート調査では、大堀川で確認された動植物のリストを活用して、大堀川流域のシンボルとか指標種に関する意見を募ってはどうか。そのことで河川に対する地域住民の親近感がさらに高まると思う。

事務局

- ・ アドバイス頂いた点に留意して検討を進めます。

委員

- ・ 環境調査を今後実施する場合、従来の調査に加え、環境 DNA 調査を加えるとよい。

事務局

- ・ 環境 DNA 調査の実施について検討していきます。

委員

- ・ 大堀川の洪水ハザードマップの浸水想定区域は外水のみを示しているのか。また、周辺河川の浸水想定区域も含まれているのか。

事務局

- ・ 大堀川の外水による浸水想定区域のみを示しています。

4. 現地視察

委員

- ・ 河口部の河川と海岸の堤防高が違うのはなぜか。

事務局

- ・ 海岸の堤防高は波浪を考慮しているため、河川よりも堤防が高いです。

委員

- ・ 河口部の水田について、塩害対策は実施しているか。

事務局

- ・ 塩害の発生や塩害対策実施状況について確認します。

委員

- ・ 中上流域の土砂堆積が顕著である。

事務局

- ・ 堆積土砂により断面が不足している場合は、必要に応じて堆積土砂撤去を行います。

委員

- ・ 委員会資料によると大堀川には「ワンド」という環境区分があるようだが、具体的に「ワンド」とはどのような環境であるか。

事務局

- ・ 河川の本流と繋がっているが、水が流れず溜まっているような環境です。

5. 閉会